



2013年4月25日発行

保健管理センターだより

風疹が流行しています！～予防接種を受けましょう！～

1. 風疹の流行状況

今年に入ってから風疹の予防接種を受けておらず、風疹に免疫のない**20～40代の男性**を中心に風疹が大流行し、患者数が昨年同時期の**20倍増加**したことが報道されています。

現時点で、龍谷大学において風疹の流行は確認されていませんが、今後本学でも感染者が増える可能性があります。

2. 風疹とは

風疹は風疹ウイルスの**飛沫感染**（唾液のしぶきなど）によって発症します。ウイルスに感染してもすぐに症状が出ず（**潜伏期間約2～3週間**）、その後、発熱（微熱程度のことも多い）、はしかに比べ淡い色の赤い発疹、首の後ろのリンパ節が腫れるなどの症状が現れます。また、咳・鼻汁・目が赤くなるなどの症状がでることもあります。発疹や熱も3日程度で治ることが多いので「**3日はしか**」と呼ばれています。

子どもは比較的症状が軽いのですが、大人は発熱や発疹の期間が子どもより長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

また、妊娠初期の女性が風疹に感染すると、胎児にも感染し、白内障、心疾患、難聴などの障害が起こる「**先天性風疹症候群**」を発症することがあります。



3. 予防接種を受けていない世代が風疹にかかっている！

風疹の予防接種は、1976年から始まりましたが、最初は女子中学生のみが対象でした。男女とも1歳すぎに接種するようになったのは1995年からです（一部、1989～1993年の間にMMR（麻しん・風しん・おたふくかぜ）混合ワクチンとして風疹予防接種を受けている人もいます）。

その後、接種を受けていない空白の世代を対象に経過措置がとられましたが、接種率は高くありません。そのため、**20代以上の人（特に男性）は免疫をもたない人が多くなっています**。

また、十分な免疫をつけるためには、2回の接種が有効とされていますが、幼少期に1回しか接種していない人も多くいます。

風疹患者を性別・年齢別に見ると、**20代～40代の男性**が多く発症しています。これは、予防接種を受けていない、または1回しか接種していない世代と一致しています。

4. 予防について

○うがい・手洗いの励行。

○予防接種を受けることが、確実な予防法！



風疹にかかったことがない、風疹ワクチンをうけたことがない方は、妊婦さんを守る、重い合併症を防ぐといった意味で、**男性も女性も**風疹ワクチンをうけておくことが推奨されてきましたが、今回の流行に伴い、厚生労働省は「**ちょうど妊婦の夫にあたる年代の男性に免疫のない人が多いので、妊婦の夫・家族や周囲の人は、予防接種を受けるなど風疹の感染予防に努めてほしい**」と通達しています。

昭和54年4月2日～平成7年4月1日生まれの男女は接種率が低く、特に昭和54年4月1日以前生まれの男性は子どものころに定期接種のチャンスがありませんでした

* 風疹ワクチンは多くの医療機関において**有料**にて接種することができます。

風疹ワクチンやワクチン接種医療機関の情報が必要な場合は、保健管理センターまでお問い合わせください。